

ぼくが生きてる、 ふたつの世界

伝えられない想いが
あふれます。

監督: 呉美保 主演: 吉沢亮 脚本: 港岳彦

忍足亜希子 今井彰人 ユースケ・サンタマリア 烏丸せつこ でんでん

原扶貴子 山本浩司 河合祐三子 長井恵里

原作: 五十嵐大「ぼくが生きてる、ふたつの世界」(幻冬舎刊) 企画・プロデュース: 山国秀幸

製作: 「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会(ワンダーラボトリー/博報堂DYミュージック&ピクチャーズ/ギャガ/IR西日本コミュニケーションズ/アイ・ビー・アイ/アミューズ/河北新報社/東日本放送/シネマエイト)

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会

©五十嵐大/幻冬舎 ©2024「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会 配給: ギャガ GAGA★ gaga.ne.jp/FutatsunoSekai/

母に背を向け、故郷を離れたぼく――。

繊細に紡がれる、きこえない母ときこえる息子、そしてあなたの物語。

GAGA★
GENOA GROUP

＊コードがきこえない、またはきこえにくい親を持つ聴者の子供

親子の物語が、そしてひとりのコードダの心の軌跡が、点描のように紡がれていく――。監督は、本作が9年ぶりの長編作品となる、『そのみにて光輝く』『きみはいい子』の具美保。作家・五十嵐大氏の自伝的エッセイを原作に、脚本は『正欲』の港岳彦。吉沢亮が、“きこえる世界”と“きこえない世界”を行き来しながら生きる主人公を体現、自身の居場所を見出していく若者の心を繊細に演じた。母・明子役には、ろう者俳優として活躍する忍足亜希子。
やがて母への想いが観る者の胸にも静かに温かく満ちていく、心に響く映画が誕生した。



母と息子、切なくも心に響く家族の物語

Story

宮城県のある小さな港町、五十嵐家に男の子が生まれた。祖父母、両親は、“大”と名付けて誕生を喜ぶ。ほかの家庭と少しだけ違ってしたのは、両親の耳がきこえないこと。幼い大に

としては、大好きな母の“通訳”をすることも“ふつう”の楽しい日常だった。しかし次第に、周りから特別視されることに戸惑い、苛立ち、母の明るささえ疎ましくなる。心を持て余したまま20歳になり、逃げるように東京へ旅立つ大だったが・・・。



「ぼくが生きてる、ふたつの世界」飯田下伊那上映会

飯田市では、誰もが暮らしやすい社会を目指して、ユニバーサルデザインの推進に取り組んでいます。

2026年**1月18日(日)** ①10:30(10:00開場) ②13:30(13:00開場)
飯田文化会館ホール (飯田市高羽町5-5-1)

字幕、
バリアフリー
日本語音声
ガイド付き

前売券 一般・大学生 1,200 円

※小・中学生、高校生は当日券をお求めください。

当日券 一般 1,500円 大学生 1,300円
小中高生 800円 (小学生未満無料)

【前売り券取扱所】

飯田市社会福祉協議会、
飯田文化会館、飯田民主商工会、
平安堂 飯田店・座光寺店
※おつりのないように代金をご用意ください

【主 催】 「ぼくが生きてる、ふたつの世界」飯田下伊那上映実行委員会

【構成団体】 飯田手話サークル、飯田ボランティア協会、飯田民主商工会青年部、飯田市社会福祉協議会、飯田人権擁護委員協議会、飯田市女性団体連絡協議会、飯田市民生児童委員協議会、飯伊視覚障害者福祉協会、南信州広域連合地域自立支援協議会、飯田長姫ライオンズクラブ、飯田ライオンズクラブ、飯伊民医連、飯伊圏域障がい者総合支援センター、要約筆記サークル「風」

【共 催】 飯田市、信濃毎日新聞社

【後 援】 南信州広域連合

【お問合せ】 飯田市 福祉課 障がい福祉係

Tel:0265-22-4511 内線5715 FAX:0265-22-8133 E-mail: fukushishougai@city.iida.nagano.jp